



I 自己評価

I 評価結果の特徴的なもの

①確かな学力の定着と向上

- ・授業規律の徹底においては、仮設校舎にも慣れ落ち着いた学習環境の中で、集中して取り組めている。忘れ物をなくし準備物を揃えることは90%を超えている。
- ・授業目標の提示や本時のまとめはほぼ出来ているが、学び合いや活用型の授業改善はまだまだのところが多。
- ・基礎基本の定着をめざし工夫した授業をしているが、生徒の受け止め方は色々である。生徒の学力定着をより分析するとともに、家庭学習への取組をする必要がある。

②豊かな心を育てる

- ・学校行事、体験活動、学年行事などを通じて集団が高まり、絆づくりが出来た。また、全生徒にスクリーニングを実施し、気になる生徒に声かけや専門機関との連携を図り、居場所づくりに努めた。

③信頼される学校づくり

- ・学校支援地域本部事業や小中連携はともに充実してきている。
- ・学級だより・学年だより・学校だよりの発行はあるが、HPの更新が出来ていない。

II 分析・改善方策

- ①研修を通して教員の力量を高めるとともに、学校からの情報を発信し、家庭・保護者の協力を得よう努める。

2 学校関係者評価委員

都守 秀典（元PTA会長） 近藤 吉一郎（前PTA会長） 頃安 俊男（元保護者）
呉島 勇男（元保護者） 細場 満里子（主任児童委員） 西村 直樹（保護者）
高山 科子（民生児童委員） 益田 京子（元学校長）

3 学校関係者評価

- ・授業評価を取り入れたことは評価できる。次回より、声の大きさ・板書の見やすさなど項目を挙げ調査をすると学習の定着度の向上を図れる。
- ・保護者の声に対して、丁寧に答えられている。もっと保護者に協力を求めるコメントを工夫する必要があると感じる。
- ・義務教育でつけなければならない基礎・基本の力は必ずつけてほしい。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

授業に関して

- ・研究授業や校内研修のより推進を図る。今年度作成の「学習の手引き」の活用とともに宿題の出し方を工夫する。あわせて、家庭の協力を得る。
- ・学力向上のため小学校との交流授業・連携をより推進する。（算数・数学、社会）

家庭・地域との連携に関して

- ・保護者・PTA・地域との連携をより密にする。
- ・HPの活用を充実させる。